



R8 年度夏季研修 G 進路研修

「学校で育てる「働く力」～障がいのある方の就労と定着の視点から～

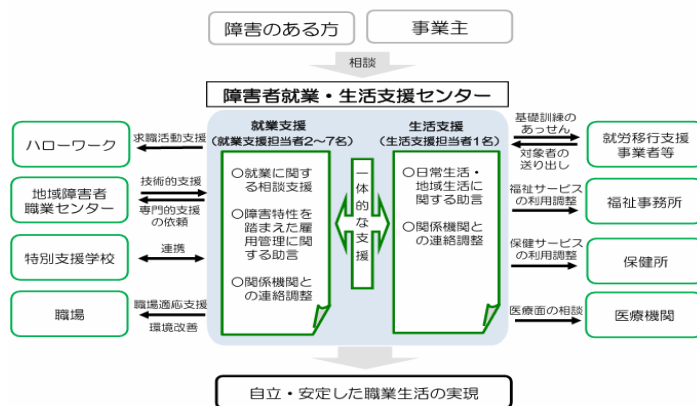
令和8年7月27日（月）図書室にて、本校の進路部・高等部進路指導主事主催で、「就労を見越したキャリア教育の視点から学校教育について考えよう」という目的に合わせ、「八尾・柏原障害者就業・生活支援センター」からお二人の講師をお招きしました。校内外合わせて92名の申し込みがありました。

① 障害者就業・生活支援センター 障がい者の職業生活に

おける自立を図るため、雇用・保健・福祉・教育等の関係機関と連携し、身近な地域において、就業面と生活面における一体的な支援を行い、障がい者の雇用の促進と安定を図ることを目的として、全国に設置（大阪府下には18か所）されています。（無料・無期限、手帳無しで利用可能）



雇用と福祉のネットワーク



引用：厚生労働省障害者就業・生活支援センターについて、
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_18012.html、2026.8.31

⑧グループワーク

5～6人でグループを作り、2つのモデルケースから話し合うケースを選んで、話し合ってください。

話し合った内容については各グループでまとめてチャットに挙げてください。

15分後（大抵）に各モデルケースについてのポイントを前に提示します。それが問題の正解とかではないので、それぞれのグループで盛り上がった内容があれば引き継ぎをお願いします。

研修ライブノート：QRコードを読み込んで、その場で質問・感想などを投稿。全員参加型研修でした😊

② 障がい者雇用を取り巻く現状

法定雇用率は2026年7月に2.7%（35人に1人）へ引き上げられ、「就職すること」だけでなく「働き続けること（定着）」が大きな課題となっています！

- ・八尾支援学校の卒業生の進路：4年間で21名が就職（一般就労11名、就労継続支援A型10名）
- 定着率76%（16名）、再就職を含むと90%（19名）
- 家庭環境により、定着率は大きく変わる。

【R8.7.1 現在】



③ グループワーク

1つの事例について以下2点について話し合い、その内容をライブノートに投稿する形式で行いました。

- ・どのような課題があるのか
- ・その課題について就学段階ではどのような取り組みができるのか。

八尾・東大阪市にある小・中学校の支援学級担当の先生方が参加されていました。事例について、「自分なら同様のケースで児童・生徒をどう支えていくのか」といった視点から様々な意見交換が行われました。

④ まとめ（支援の最終目的）

学校卒業後に本人が、自己選択・相談できる・助言の受け入れ・必要な支援につながる・所属社会で役割を持つ・孤立せず生活するための力を育てることが重要です。

「支援の先に、本人はどのような大人になっていくのか」という視点を教員が持つことが求められています。